

第5回原子力改革監視委員会 議事概要

1. 日 時：2013年12月2日（月）13:00～15:00
2. 場 所：東京電力株式会社 本店10階西側会議室
3. 出席者：クライン委員長，ジャッジ副委員長，櫻井委員，鈴木事務局長，
下河邊会長（委員），廣瀬社長（原子力改革特別タスクフォース長），
相澤副社長（原子力改革特別タスクフォース長代理），姉川常務（原子力改革特別タスクフォース事務局長）

4. 概 要：

◆ 委員長開会挨拶

- （クライン委員長）この数ヶ月で東京電力の改革に大きな進捗が見られたことを嬉しく思う。特に次の3つの分野について進捗が見られた。1つ目は、福島第一原子力発電所4号機からの燃料取り出し作業である。1回目の一連の作業終了後、独自にレビューを行ったことから、安全文化が浸透していることが分かった。また、原子力規制委員会が柏崎刈羽原子力発電所の新規制基準適合審査を実施していると聞いた。私は同発電所を訪れたが、かつてより安全かつ強固な発電所になっていると感じた。2つ目は汚染水対策である。この分野は進展しているものの、今後も課題であり続けると考えている。また、福島第一原子力発電所で最も重要なことは、炉心及び使用済み燃料プールを冷却し続けることであり、いずれも問題なく冷却されている。3つ目はコミュニケーションである。以前より迅速さと透明性が高まり、大幅な改善が見られた。

◆ 各委員から一言

- （ジャッジ副委員長）前回の委員会以降、大きな進捗が見られた。1つ目は原子力安全監視室が設立され、活動を本格化してきたことである。安全文化は長い時間をかけて醸成していくものである。まだ緒に就いたばかりであり、期待ほどのスピードで進んでいない点は、少し残念である。原子力安全監視室は、ラインに対する厳しい問いかけが気まずさに繋がるとしても、チャレンジ精神を持って建設的なアドバイスをする必要がある。2つめは、福島での作業環境（給与・賃金，食事，交通手段，設備，休憩室，通信）が改善されたことであり、それは、福島，東京電力，国に対して良い影響を与える。先は長いが幸先の良いスタートを切ったと考えている。

- (櫻井委員) 安全文化の醸成, コミュニケーションのあり方, 仮想事故時の対応訓練で着実な進展が見られる。また, 福島では廃炉作業に向けた第一歩が始まった。安全文化・説明責任を果たすという原点に, もう一度立ち返ることが重要である。なお, 汚染水対策では未だ多くの課題が存在しており, 関係機関と調整し, 抜本的な改善を図って欲しい。情報発信については, 迅速さに加えて, 社会・地元住民等の目線を踏まえて対応して欲しい。柏崎刈羽原子力発電所と本店との訓練で得られた検討課題は, 福島第一, 第二原子力発電所と共有し, 活用を図って欲しい。そして, 社会の目線を持って安全確保に努め, 安全が安心につながるように尽力願いたい。また, 社員が高い意欲を維持・発揮できるように, 東京電力は住環境等にも配慮して欲しい。

◆ 原子力改革特別タスクフォース長より挨拶

- (廣瀬タスクフォース長) 前回の原子力改革監視委員会から4ヶ月が経過した。特に7月から9月頃にかけて, 汚染水・雨水対応等での不手際が相次ぎ, 社外の皆さまにはご心配, ご迷惑をおかけした。これを受け, 10月, 11月はより一層対応を強化した。先程来, 委員の方々からは東京電力の取組に対して過大な評価を頂いているが, 実際, トラブルの発生は11月頃から落ち着いてきた。しかし地下水汚染や汚染源問題等, 根本的な問題の対策はできていないため, 気を引き締めて実施していきたい。トラブルが減ってきている今の期間に, どれくらい次の事象を予見し, 準備できるかが重要であると考えている。本日は前回の委員会以降に生じた事象の報告, それに対する現在及び将来に向けての取組を報告させて頂く。委員の皆さまより忌憚の無い意見を頂きたい。

◆ 福島第一原子力発電所の廃炉に係る状況について

松本福島第一対策担当より, 福島第一原子力発電所の廃炉に向けた中長期計画及び4号機使用済燃料取り出し作業の進捗状況について報告がなされ, 議論を行った。各委員の主なコメントは以下のとおり。

- (クライン委員長) 汚染水を含めた水処理対策は今後も大きな課題である。想定外の事象が起きることもあり得る。冬季を迎えるにあたって汚染水等の水配管が凍結しないように留意してほしい。
今後のことを考えると, 多核種処理水(トリチウム水)を早期に海洋放出できることを願う。
- (廣瀬タスクフォース長) 廃炉の推進にあたっては, 世界的なバックアップ体制が必要である。今後も是非委員の方々のお力を貸して頂きたい。

◆ 原子力安全改革プランの進捗について

- クロフツ原子力安全監視室長より、原子力安全監視室の活動状況について報告がなされ、議論を行った。各委員の主な発言は以下のとおり。
 - (ジャッジ副委員長) 原子力安全監視室が設立されてから、東京電力が相当努力していることが伺える。東京電力は、従前の効率重視の文化から安全重視の文化に変わりつつある。

福島第一原子力発電所 4 号機からの燃料取り出しや廃炉に向けた今後の取組について、原子力安全監視室として原子力・立地本部長に対してどのような助言を行ったのか。
 - (クロフツ原子力安全監視室長) 以下の 3 点について助言を行った。
 - ① 安全作業に係る手順書は、目標の設定ではなく、作業員の安全（特に放射線被ばく）に焦点を当てているか。
 - ② 4 号機燃料プールからの燃料取り出しにおいては、作業開始時と同様の緊張感を持って、今後も作業に注力していくこと。
 - ③ 安全作業に係る手順書には改善の余地がある。
 - (クライン委員長) 規制当局と事業者は対話することが重要。東京電力には躊躇があるように見える。規制当局のスタッフと東京電力でよくコミュニケーションをとってもらいたい。規制当局が独立していることからコミュニケーションを取れないと考えているかもしれないが、元規制当局にいた者からすると、独立していてもコミュニケーションは可能である。
 - (廣瀬タスクフォース長) 規制当局との対話は、オープンミーティング（公開）が原則であるが、非常に重要であると考えている。
 - (櫻井委員) 原子力安全監視室は、東京電力の他部署とどのような連携をとって活動を行っているのか。
 - (クロフツ原子力安全監視室長) ソーシャル・コミュニケーション室とリスク評価で連携を取っている。なお、最も連絡のやりとりが多いのは安全に関わる部門や各発電所である。少なくとも週 1 回は発電所へ足を運び、1 日かけて現場と対話することを心がけている。直近 2 ヶ月間はこのペースを継続している。
- 国内外コミュニケーションの改善状況について、見学ソーシャル・コミュニケーション室副室長より報告がなされ、議論を行った。各委員の主な発言は以下のとおり。
 - (クライン委員長) かなり改善している。以前は、東京電力で何らかのトラブルが発生した場合、マスコミからの電話で知ることが多く、非常に苛々したが、最近その割合は相当減少した。今後は、さらなる改善のためにも危機

的状況（燃料キャスクが落下する，燃料集合体が落下する，タンクが破裂してしまう，等）を想定した対外対応シミュレーションを実施すべきである。技術スタッフとコミュニケーションスタッフが共同で訓練を行うことが重要である。これにより，実際に危機が起きたときにリスクコミュニケーションができる体制ができる。

- **（ジャッジ副委員長）**トラブル発生時は，明確な根拠が不明であってもリスクを回避するシナリオを即座に公表すべきである。明確な根拠が不明という理由で公表しない状態が続くと，情報を隠しているように思われる。なお，情報発信の際は受け手を意識し，その受け手に向けたメッセージを送ることが重要である。
- **（櫻井委員）**東京電力の各種会見・発表等は，負担が軽くないと思うが生放送の重要性を理解し，直接受け手に向けてのメッセージを発信することも重要である。
- 柏崎刈羽原子力発電所における取組状況及び原子力安全改革プランの目標管理のあり方について，姉川タスクフォース事務局長より報告がなされ，議論を行った。各委員の主な発言は以下のとおり。
- **（クライン委員長）**柏崎刈羽原子力発電所の新規制基準適合申請は，全世界が注目しているため，しっかりと取り組んで欲しい。第三者機関によるコーポレートレビューでは厳しい指摘がなされていると聞いている。指摘事項をよく吟味し，全て対応すべきである。改革プランを着実に実行するためには専属チームが必要であり，強化すべきである。
- **（姉川タスクフォース事務局長）**改革プランの着実な実行のために，現状でも原子力部門の中にマネジメントチームは存在しているが，厳密には専任ではない。したがって，今後フォローアップを行いたい。

◆ 福島原子力事故における未確認・未解明事項の調査状況について

福島原子力事故における未確認・未解明事項の調査状況について姉川タスクフォース事務局長より報告がなされ，議論を行った。各委員の主な発言は以下のとおり。

- **（クライン委員長）**資料は，コミュニケーションチームがわかりやすいサマリーを作成した上で公表すること。
- **（ジャッジ副委員長）**絵図を駆使する等，分かり易い資料にした上で公表すること。
- **（姉川タスクフォース事務局長）**十分に準備した上で公表させていただく。

◆ 議事とりまとめ

- (クライン委員長) 今回の委員会での説明を聞いて、全体として大きな進展が見られており、大変勇気づけられた。これまでの委員会と比較して、今回の委員会は、はるかに良いものであった。

◆ 東京電力としての受け止め

- (下河邊会長) 本日東京電力からご報告した「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に係る状況」「原子力安全改革プランの進捗状況」「福島原子力事故における未確認・未解明事項の調査状況」につき、委員の皆様へ審議いただき、今後、東京電力が具体的に取り組むべき事項についてご意見・ご提言をいただいた。東京電力取締役会としてこれらを全て尊重し、総力を挙げて一つ一つ愚直に取り組んでいく。東京電力が社会からの信頼を一つ一つ回復するには、これらの取組状況を最大限開示し、コミュニケーションを密にする以外の手段は無い。改革の進捗状況は、監視委員会の皆様へ今後も適宜報告させていただく。

◆ その他連絡事項

- (鈴木事務局長) 次回の原子力改革監視委員会は2014年5月上旬開催予定。

以 上